

## A36\_バイクシェアサービスで持続可能な社会の実現へ

みなさまこんにちは。

ドコモ・バイクシェア代表取締役社長の武岡雅則です。持続可能な社会の実現に向けた、ドコモ・バイクシェアの取り組みをご紹介します。

人間が自然環境にどれだけ負荷を与えているのかを示した数値をエコロジカル・フットプリントと呼び、2020年の人間活動では地球1.6個分と言われています。

温室効果ガスについても、今のまま排出を続けると2100年にはオランダの国土の半分が沈むとも言われています。

私たちがサービスを提供するシェアサイクルを利用することで他の交通手段と比べCO2排出を軽減することが可能です。

例えば、人を1km運ぶことで排出するCO2の量は、自動車132gに対し電動アシスト自転車は2g/kmになっており66倍の差があります。

SDGs教育も進みエシカル消費が高まるなか、バイクシェアアプリでは利用後にCO2削減量や消費カロリーをイラスト付きで可視化しています。

広告協賛企業にも対象自転車のCO2削減量を提示し活用してもらうなど、他企業との連携も進んでいます。

バイクシェアサービスは、2011年に横浜市と共同事業としてスタートしました。

移動における新たな日常を提供し、1年間にご利用いただく利用回数は1980万回にまで大きく成長しています。

シェアサイクルのビジネスモデルは全国の自治体と共に作り上げ、昼間人口の多い都市部以外にもエリアを広げるためシステム提供をメインとしたASPモデルを発明し、全国での普及につなげました。

現在全国で53エリアにサービスを展開しています。

エリア拡大に伴うサイクルポートの増加や車両台数の増加により、車両の配置数やバッテリーの状態などを適正に保つ「再配置業務」が複雑になっていることから、効率化が経営上の課題となっています。

2021年3月からAIを活用した「AI再配置システム」を導入、2023年4月には事業指標に即した形でアルゴリズムを変更、運営事業者に使いやすいUXに刷新しました。

最適なルート割り出しや予測ができるようになったため機会損失を減らすだけでなく、無駄な運搬ルートも改善できるようになっています。

NTTグループ4社による共同実証として、2022年11月に長野県上田市・千曲市で「グリーンエネルギーを活用した新たなサイクルポートの実証実験」を行いました。

太陽光パネルで発電した電力を蓄電池に充電し、サイクルポートを通じて電動アシスト自転車のバッテリーを自動充電するシステムを新たに開発しました。

バッテリー交換から発生する温室効果ガスの低減も目指すものです。

シェアサイクルへの路面舗装型太陽光パネルの活用は日本初となりました。

最適配置作業に使用する車両をガソリン車から再生可能エネルギー由来の電気を使用したEVトラックへ切り替えることで、シェアサイクルのサービス全体としてゼロカーボンを実現できるよう、実証実験を行いました。

太陽光パネルで発電した電気を蓄電池へ一時蓄電のうえ、EVトラックへ充電するため、これまでよりも環境に配慮した運営が可能となります。

東京都との共同プロジェクトで行う、EVバイク等利活用促進事業の新サービス「東京EVバイクシェア」です。2023年5月に小池都知事にも登壇いただき開始しました。

東京都は脱炭素を強力に推進しており、バイクのEV化要請に応える形で実現しました。

車両は、電動3輪バイク「GOGO!」を導入し、東京都臨海部の5ポート、30台でサービスを展開しています。

サービス開始当初からの累積利用回数は約7830万回に届きました。

自転車シェアリングサービスの提供による2022年度のCO2削減量は自動車比で約7,000トンを超えており、継続的なカーボンニュートラル効果をあげています。

今年度は昨年よりもさらなる利用の増加が見込まれます。累計1億回を超える日も、そう遠くはありません。

今後は、バッテリー充電の電力グリーン化、EVトラックの導入、MaaS拡大によるCO2削減最適化交通手段のリコメンドなど、ネットゼロの移動手段を目指していきます。

また、地球資源の枯渇を見据え、サーキュラエコノミーへの取り組みも加速していきたいと考えています。

利用自体がサステナブルな移動手段に進化させ、その上で利用を伸ばすことで地球環境を守り、持続可能な社会の実現に取り組んでいきます。